

健康で安心感のある暮らし						
分類	発言順	会派名	質問者	大項目	中項目	小項目
保健・医療	③	三輝会	月橋 寿文	1 市立三次中央病院の健全な運営について	(1) 病院建替え計画の現在の状況について	ア) 本年1月30日の教育民生常任委員会での説明では、280床を262床に削減、床面積も6％程度削減、建物構造も免震鉄筋コンクリート造へ変更など、当初の計画とは徐々に変わってきましたが、一旦、建替を見送った中での現在の状況を伺う。
					(2) 赤字改善策について	ア) 令和元年からのデータを見ると、年々入院も外来も患者数が減っている、そして、ついに令和6年度に、約7億円の赤字になってしまった。赤字改善策をどのように考えているのか伺う。
					(3) 職員の人員不足確保策について	ア) 現在、総職員数は、587名、看護師だけでも309名と大勢の職員が働いている。近年、慢性的な人員不足となっている。どのように人員確保をしていくのか伺う。
						イ) 近年、年間40名以上退職した年もあったと聞いている。退職者の退職理由について把握しているのか伺う。
					(4) いきいきと働ける職場の環境づくりについて	ア) 市立三次中央病院だより花みずき第44号を見させていただくと、副院長の新任挨拶の中に「職員全員がこの病院で働いて良かったと思えるような病院を目指さなければ、患者様に安全で最新の医療サービスを提供することはできません。また、職員が整った環境で前向きな気持ちで働けることが、病院の価値を高めて地域社会に貢献することに繋がります。」と書かれていた。全くその通りだと思う。では、どうすれば良いのか、今、足りないところを提案させていただきたい。まず、職員への面談について、問題点、キャリア、異動、人間関係などを1年に1回は、総務部が中心となって、聞き取りをする必要があると思うが、行う考えはないか伺う。
						イ) 24時間体制の病院で働く場合、長時間労働や夜勤などの負担、また、生死に関わる仕事のため精神的な負担が多いと言われている。一般的にワークライフバランスが難しい職場とされている。ストレスも溜まりやすいと思うが、職員へのストレスチェックは、100％実施されているのか伺う。
						ウ) ストレスチェックで、高ストレスと判定された場合の面接などの対応について伺う。
						エ) 産業医やカウンセラーなどの専門家に、安心して相談でき、適切なサポートを提供できているか伺う。
						オ) 厚生労働省では、職場復帰支援の手引きで、実際の職場復帰にあたり、事業者が行う職場復帰支援の内容を総合的に示している。心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援プログラムの策定とルール化は、どのように行われているか伺う。
					(5) ハラスメント防止対策について	ア) 病院内のハラスメント相談窓口は、どこにあるのか、どのような体制で相談を受け付けているのか伺う。
						イ) 府中市民病院機構では、ハラスメント防止コンサルタントによる相談体制を整備し、快適な職場づくりに取り組まれている。市立三次中央病院でも専門知識を持つ第三者相談窓口の設置を行う考えはないか伺う。
						ウ) 三次市議会では、（仮）議会関係ハラスメント根絶条例の制定を予定している。市として、ハラスメントの根絶や抑止を図るため、ハラスメント防止条例の制定を行う考えはないか伺う。
				2 診療所のあり方について	(1) 5か所の診療所の維持について	ア) 3月定例会で、三次市診療所基金条例が改正された。施設や備品にしか使えなかった基金を、運営費にも使えるように変更したものである。令和6年度の基金繰入前の決算では、5か所の診療所が全て赤字となり、基金残高も僅かとなった。これから診療所のあり方について検討に入っていくとのことだが、どのような方向性で考えられているのか伺う。
					(2) 赤字改善策について	ア) 赤字改善策は、診療効率の向上、経費削減、新規患者の獲得など、様々な方法が考えられる。市としては、具体的にどのような改善策を検討されているのか伺う。
					(3) 医師確保に対する取組について	ア) 市立三次中央病院や三次地区医師会などと協力して、医師確保に向けてどのような対策をされているのか伺う。

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年6月定例会】

						イ) 三次市医師育成奨学金貸付制度が始まって、5年が経過したが、現在まで応募者がいないと聞いている。この状況を分析しどのような対策を講じられているのか伺う。
保健・医療	③	三輝会	月橋 寿文	2 診療所のあり方について	(4) 地域との連携について	ア) 地域包括ケアシステムの構築について、支所や保健師、地域包括支援センターなどと協力して、診療所が地域で支える医療体制を構築できているのか伺う。
						市立三次中央病院主催の市民公開講座は、いつも多くの方で賑わっており、市民の医療への関心の高さが伺える。診療所の医師も健康講座や交流会を開催することで地域住民との距離も縮まり、医療への関心も深まると考える。今後、このような企画を開催していく考えはないか伺う。
	④	三輝会	横光 春市	1 令和7年度施政方針について	(2) 市立三次中央病院改築見込み等について	ア) 施政方針の「収支状況を見極めながら」とは、市立三次中央病院の収支と考えるが、コロナ禍が過ぎて、病院経営も赤字経営との報告もあったが、そればかりでなく、令和7年度当初予算概要で示す、経常収支比率を見てみると、令和7年度は99.1％、令和8年度、令和9年度も100％以上を示している。このような状況が数年で収支状況が改善すると考えておられるか、所見を伺う。
						イ) 「建替を一時立ち止まり、事業の再構築を検討」するなかで、建替の基本設計業務は執行されるのか、執行されないのか伺う。
						「事業の再構築」ということは、市立三次中央病院の規模についても検討することになれば、無駄な基本ウ) 設計業務となる。「基本設計業務は執行しないで」この際、建替に係る予算は次期補正予算において減額されるべきと考えるが、執行部の所見を伺う。
福祉	⑥	清友会	重信 好範	1 生活保護世帯ならびに生活困窮者について	(1) 生活保護世帯の現状等について	ア) 本年度以降の増減とその原因について伺う。
						イ) 今後の制度利用者の推移をどう分析しているのか伺う。
						ウ) 制度を理解してもらうことへの工夫をどうされていくのか伺う。
						エ) ポスター作製は考えないか伺う。
					(2) エアコン購入費助成の周知やその状況等について	ア) 対象者世帯への周知について伺う。
						イ) エアコンの設置状況について伺う
						ウ) エアコン購入費、設置費の市独自補助について伺う（生活困窮者も含む）
						エ) 生活保護費の引き上げと電気料金の夏季加算実施について国に働きかけないのか伺う。
	⑧	清友会	保実 治	3 障がい児支援について	(1) インクルーシブ教育と通級指導について	ア) 本市の現状と今後の対応について伺う。
	多文化・共生	⑦	清友会	宍戸 稔	4 女性活躍推進について	(1) アシスタlab.の取組状況について
(2) アシスタlab.の課題について						ア) アシスタlab.の課題について伺う。
⑩		明日への風	藤岡 一弘	2 共生社会を目指す政策について	(1) 三次市パートナーシップ宣誓制度について	ア) 令和5年1月1日から開始された「三次市パートナーシップ宣誓制度」の運用状況を問う。
					イ) 「三次市パートナーシップ宣誓制度」の利用に向けた今後の取組を問う。	

安全で快適な生活環境						
分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目
自然環境	—	—	—	—	—	—
生活基盤	②	真正会	鈴木深由希	2 地域公共交通について	(1) まちづくり交通課，自治交通係の担う業務について	ア) 三次地域公共交通計画が令和3年度から令和7年度である。最終年度、今後の取組について伺う。
						イ) 自治交通係が今年度着手している地域公共交通の取組において，布野町まちづくり連合会と視察に行かれたと聞いている。視察の目的と成果を伺う。
						ウ) 三次市民バスにおけるミライロＩＤの取り扱いについて，導入以降，啓発はどのように行ったか。利用者の状況を伺う。
						エ) 令和5年6月に参考にと提案した，島根県邑南町の「はすみデマンド」，安芸高田市の「お助けワゴン便」の運行についてあらためて紹介する。補助金頼みの公共交通は危機に瀕しており，学校統廃合によるスクールバスの運行も視野に入れて，少ない財源でどう地域公共交通を維持していくか，市内全域で総合的な運行に着手するべきと考える。調査データを元にＡＩを活用して運行計画作成が可能でないか，所見を伺う。
	⑨	明日への風	増田 誠宏	1 公共交通の継続的な維持について	(1) 高速バス・路線バスの維持に向けた課題と対策について	ア) 本会議において，協議される地域内フィーダー系統確保維持計画のあり方について伺う。
						イ) 本会議の資料は利用状況等，常にデータ分析されている。増減なし横ばいであるが，利便性の向上に視点を変えて検討することで課題解決につなげることはできないか。ご所見を伺う。
防災減災・安全	⑩	明日への風	藤岡 一弘	4 防災・減災の取組について	(1) 内水対策事業（道路冠水等）の取組について	ア) 三次市では平成30年7月豪雨の発生以降，再度被災の軽減を目的に内水対策事業を実施されている。畠敷・願万地地区における内水対策として，畠敷地区は，緊急内水排水機場の排水ポンプの増強の効果を十分に発揮させるため，恵木谷川から畠敷緊急内水排水機場へ繋がる排水路の改良。願万地地区では，雨水貯留施設を設置されるなど，着実に内水対策事業が進められている。しかし，畠敷・願万地地区以外である，「その他の地区における内水対策」はどのような状況であるのか。内水対策が必要である地域をどう認識しているのか問う。
						イ) 内水対策において，今後優先的に取り組む課題をどのように考えているのか見解を問う。
						ウ) 内水対策にあたり三次市では，中長期的な視点を持ち，ハード対策とソフト対策を組み合わせながら，効果的・効率的に内水被害のリスクの軽減を図ることを基本的な考え方としている。大雨・豪雨の危険増加に対応するための三次市内における内水対策の長期的なビジョンと具体的な計画をどのように考えるか見解を問う。

子どもの未来応援						
分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目
子育て	⑥	清友会	重信 好範	2 保育所の現状ならびに今後の展望について	(1) 保育士の配置基準や処遇の改善について	ア) 現状の保育士の配置基準ならびに処遇改善について伺う。
					(2) 保育の質の向上について	ア) こどもたちに寄り添う保育ならびに保育の質の向上にどのように取り組んでいくのか伺う。
						イ) 男性保育士の早期退職原因ならびに保育士の育成について伺う。
					(3) 保育士の確保の見通しについて	ア) 保育士確保対策事業補助金制度の利用状況について伺う。
						イ) 補助制度の周知について伺う。
						ウ) 保育士確保の将来性について伺う。
					(4) 保育所 I C T化事業の状況について	ア) 事業の成果と課題ならびに全保育所への導入は完了したのか伺う。
						イ) おたよりなどを見ることができないスマートフォン弱者への配慮について伺う。
	⑧	清友会	保実 治	2 こども発達支援センターの現状について	(1) 現状と今後の対応について	ア) 保育所・こども発達支援センター・児童発達支援センターバンビ・教育委員会との連携はどうなっているのか。
					(2) 早期発見のための取組について	ア) 「5歳児健診」に取組む考えはないか。
	⑩	明日への風	藤岡 一弘	1 三次市の子育てについて	(1) 子育て環境の課題と魅力発信について	ア) 三次市での子育て環境は、これまで様々な施策や制度を通じて、子育て環境の充実に取り組まれてきた。三次市の期間合計特殊出生率は、ほとんどの年で国と県を上回ってはいるが減少傾向にあり、1.42(2023年)となっている。期間合計特殊出生率の推移の状況をどう捉え、三次市の子育て環境の課題の認識を問う。
						イ) 子育ての充実に向けて課題を分析し、施策に反映していくことは重要である。さらに、三次市の子育て良さを把握し、維持・促進していくことは、三次市の子育ての魅力につながるかと考える。三次市で子育てをする良さ（メリット）をどう認識しているか問う。
						ウ) みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）の子育て施策の目標指数として「安心して子どもを産み育てる環境が整っている」と思う市民の割合が設定されている。この目標指数を達成するためにも、施策の充実だけでなく、市民の方々に三次市の子育ての魅力を伝えていかなければならない。目標指数を達成し、三次の子育ての魅力を伝える今後の取組を問う。
					(2) ひとり親家庭への支援について	ア) ひとり親家庭の子どもの生活状況について、ひとり親家庭ほど、中学校での部活動への参加状況が低い傾向や宿題の提出が遅れる傾向にあるなどの実態調査がある。家事や身の回りの負担など、勉強・部活動よりも家庭に時間を要する状況にあるのではないかと推察するが、ひとり親家庭の子どもの生活状況について、どのように分析しているのか問う。
						イ) 今年度から開始された三次市こどもの学習支援事業について、導入目的と申込み・利用状況を問う。
						ウ) ひとり親家庭への支援として、家事や子どもと向き合う時間を確保することが重要ではないか。その一助となる支援事業として三次市では、「ひとり親家庭等日常生活支援事業」がある。「ひとり親家庭等日常生活支援事業」の運用状況を問う。

子育て	⑩	明日への風	藤岡 一弘	1 三次市の子育てについて	(2) ひとり親家庭への支援について	エ) 父子家庭に対する支援について、国が令和3年度に実施した「全国ひとり親世帯等調査」では、親が最も困っていることに「家事」と答えた世帯は、母子世帯3%に対し、父子世帯は14.1%と他の項目と比べ特に高い結果となっている。三次市においても、父子家庭がより相談しやすい体制を構築されたいと考えるが見解を問う。 オ) 三次市では、令和6年3月に三次市子どもの生活実態調査について報告書をまとめられた。その分析を活用して、「三次市ひとり親家庭等自立促進計画」のようなひとり親家庭を支援するための計画を策定し、支援が必要な世帯に行き届くようにすべきではないかと考えるが、見解を問う。
	⑪	明日への風	徳岡 真紀	1 三次市の児童虐待防止の対策について	(1) 本市の児童虐待防止の取組について	ア) 全国的にも増加する児童虐待だが、本市での現状をどのようにとらえているか。 イ) 本市でも「子どもの予防的支援構築事業」等の取組が行われているが、本市の虐待防止対策とその効果を伺う。
					(2) 特に表面化しにくい性的虐待防止の対策について	ア) 本市の子どもへの性暴力、性的虐待に対する取組を伺う。 イ) 性被害の加害者は8割が顔見知りだという調査があるが、保護者など大人への啓発の取組を伺う。 ウ) 保育所、学校など子どもたちと日々接する機関や事業所等への周知や研修はなされているのか伺う エ) これまでの性教育から子どもたちの人権やジェンダー、多様性なども含めた包括的性教育の必要性がある と考えるが、本市での性教育の取組を伺う。 オ) 若者のSNS等での性被害も非常に増えており、SNS利用による性被害から子どもを守るための取組に ついて伺う。
						ア) 広島県や民間の支援団体等との協力体制についてどのような連携がとられているのか伺う。 イ) 国内では教育分野の法律の専門家であるスクールロイヤーの導入が進んでいるが、スクールロイヤーの導 入についての考えはあるか伺う。 ウ) 里親制度の周知を行い、虐待を受けた子ども等家庭に居場所のない子どもたちの受け入れに取り組む考え はあるか伺う。
						ア) 条例は子どもにも適用されるのか伺う。 イ) 虐待や性犯罪の加害者は家族等も多い中で現状に合わせた条例の見直し等の考えはあるか伺う。 ウ) この条例の適用はあるのか、市民へのさらなる周知が必要ではないか。
					(3) 地域や関係機関との連携体制について	
					(4) 三次市犯罪被害者支援条例の適用につ いて	
教育	①	公明党	中原 秀樹	1 三次市立小中学校のあり方に関する基 本方針について	(1) 子どもたちが魅力を感じる学校づくりにつ いて	ア) 令和6年度に実施した「小学生学校生活に関するアンケート」からみえる安心できる居場所づくりにつ いて伺う。 イ) いじめの件数は増加し些細なトラブルから暴力行為に至る事案も増加している。どのような環境で増えて いるのか。早期解決に努めておられるが、不登校生徒の増加関係はどのように分析されているのか。また 不登校対策の取組について伺う。

教育	①	公明党	中原 秀樹	1 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針について	(1) 子どもたちが魅力を感じる学校づくりについて	ウ) あり方に関する基本方針（案）には学校部活動や放課後子ども教室など放課後や休日における子どもの居場所づくりについて明記されているが、再配置後の活動計画は市としてどのように検討されているのか伺う。
					(2) 再配置の進め方について	ア) 今後の再配置計画では、国の一定基準時間以上の通学が予想される地域もあると伺っている。市としては、スクールバスや公共交通機関を考えておられるが、安全対策や具体的な運行計画の考えはあるのか伺う。
						イ) 令和7年3月に示された再配置計画では、原則隣接する学校が再配置相手校と示されている。現状では、再編対象校の学校生徒・保護者・地域の説明会など行われているが、再配置相手校への説明会などの環境整備はどのように計画されているのか考えを伺う。
						ウ) 再配置の計画が進むことにより、これまで取り組んできたコミュニティスクールや地域学校協働活動の取組はどのように変化していくのか。また学校がなくなる地域が希薄化しないように以前の学校の教育資源を活用するとされているが、幅広い取組が再編後に可能なのか伺う。
						エ) 再配置計画には、小規模特認校と学びの多様化学校についても対象校欄に記載があり、令和9年から色塗りがされている。具体的な学校名が記載されていないのは何故なのか。今後の小規模特認校と学びの多様化学校の設置について市の考えを伺う。
						オ) 再配置計画が進められるうえで、今後小学校に通う予定の未就学世代の保護者説明会など計画されているのか。また再編地域の保育施設運営はどのように計画されているのか伺う。
	③	三輝会	月橋 寿文	3 各種補助金について	(3) 真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業補助金のあり方について	ア) 基金残高が少なくなったため、令和7年度から補助額が10万円から5万円へと減額されてしまいました。子どもたちの夢を応援する大切な事業だが、ふるさと創生基金（スポーツ・文化振興に関する事業）を活用して、補助額を10万円に戻し、継続できないか伺う。
	⑤	清友会	山田真一郎	1 三次市における教育環境について	(1) 新学校給食共同調理場となった給食の現状について	ア) 提供内容についてどう評価されているのか伺う。
						イ) 食材費は不足していないか、現状と今後の見通しについて伺う。
					(2) 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針について	ア) 市民への素案説明会について
						イ) 小中学校の再編計画について
						ウ) いじめ・不登校対策について
						エ) 子ども達の理解度について
						オ) スケジュールについて
					(3) 学びの多様化学校の設置の考え方について	ア) 多様化学校の必要性について本市の考えを伺う。
						イ) 設置についての協議について伺う。
						ウ) 今後のスケジュールについて伺う。
	⑦	清友会	宍戸 稔	2 君田小中学校の再編について	(1) 君田中学校再編に向けての経緯とスケジュールについて	ア) これまでの経緯について、再編計画が示されてから地元住民の納得へどういう取組が行われたのか。
						イ) 今後、どういうスケジュールでこれから進められていくのか。

教育	⑦	清友会	宍戸 稔	2 君田小中学校の再編について	(2) 君田町の地域と児童生徒との関わりについて	ア) これまで児童生徒が地域と関わってきたことはこれからどうなるのか。
	⑧	清友会	保実 治	4 学びの多様化学校について	(1) 本市の取組について	ア) 本市の不登校の現状と課題について伺う。
	⑨	明日への風	増田 誠宏	2 市立小中学校の統廃合について	(1) 統廃合による財政への影響について	ア) 統廃合に財政的理由が含まれているのか。
						イ) 学校の統合によって地方交付税はどう変化し、財政運営上のメリットはあるのか。
					(2) 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針における再配置計画策定の経緯について	ア) 今回の方針は学校の再配置なのか、単なる統廃合なのか、その位置付けはどうか。
						イ) 通学に関する議論が検討事項から外された理由は何か。
						ウ) 地理的条件や策定過程、相手校の選定理由はどのように検討されたのか。
					(3) 詳細な再配置計画の策定について	ア) 詳細な再配置計画の策定予定はあるのか、現状の記述だけで進めるのか。
						イ) 再配置を「共創」として進めるための姿勢や仕組みはあるのか。
						ウ) 子どもたち自身の意見や学びの機会として、計画への関与はどう図られているのか。
						エ) めざす学校規模の運用について、地域事情を踏まえた柔軟な考え方が必要であるのではないか。
						オ) 相手校の見直しや再配置計画全体の修正は、今後の議論や状況で可能なのか。
					(4) 再配置に向けての諸課題について	ア) 通学環境や放課後児童クラブ等の対応において、保護者に寄り添った対応を確実に行うべきではないか。
						イ) 地域づくりとの関係において、学校の再配置が与える影響への配慮はあるのか。
						ウ) 高校との連携の視点は再配置計画に盛り込まれているのか。
						エ) 学校跡地の取り扱い方針は、地域との共創という視点から見直しが必要ではないか。
					(5) 支所を含めた庁内連携と“共創のまちづくり”の実現に向けて	ア) 支所は今回の再配置にどう関わり、どのような役割を果たしているのか。
						イ) 庁内連携会議はどのように機能しているのか。関係部署の実効的な連携は図られているのか。

教育	⑨	明日への風	増田 誠宏	2 市立小中学校の統廃合について	(5) 支所を含めた庁内連携と“共創のまちづくり”の実現に向けて	ウ) 教育委員会の人的体制は、現状の業務量に対応可能なのか。
						エ) 市長が言う「安心」の中身とは何か。柔軟に対応していくとのことだが、計画の見直しも含めた柔軟な姿勢はあるのか。
				3 就学援助制度について	(1) 就学援助制度の周知と積極的な活用について	ア) 制度の周知は十分か、申請漏れを防ぐための工夫はあるか。
						イ) 誰が支援を受けられるのか、認定基準は実情に合っているか。また、対象範囲を広げる考えがあるのか。
	⑩	明日への風	徳岡 真紀	2 放課後児童クラブのあり方について	(1) 本市の放課後児童クラブの現状と諸課題について	ア) 放課後児童クラブの目的と事業内容を伺う。
						イ) 待機児童はいるのか、また希望される児童の受け入れは出来ているか。近年働き方は様々で自宅での仕事なども一般的になっているが柔軟な対応はできているのか。
						ウ) 児童クラブの施設設備は十分に子どもたちの健全育成に資するものであるか。
						エ) 健全育成の目的に資する教材は十分確保できているのか。
						オ) 安心安全な居場所として防災対策、避難訓練等は実施されているのか伺う。
				(2) 児童クラブ運営指針の改正を受けて本市の取組について		ア) 子ども基本法に沿って、子どもの権利など支援員、保護者、子どもへの周知や研修は行われているのか。
						イ) 子どもの意見を取り入れた運営が行われているか。
						ウ) おやつ提供について食育の観点を踏まえた取組が行われているか現状を伺う。
						エ) 地域との連携についてコミュニティスクールの一環として地域住民を巻き込んだ取組などの必要性があるのではないか。
	⑪	会派 未来	新田 真一	1 中高一貫校の今後について	(1) 中高一貫校の設置目的の検証について	ア) 夢の実現のために、市外への高校進学者が地元高校へ戻ったか伺う。
						イ) 県立中学と市立中学が切磋琢磨し教育は活性化したか伺う。

教育	⑫	会派 未来	新田 真一	1 中高一貫校の今後について	(1) 中高一貫校の設置目的の検証について	ウ) 近隣市町からの入学希望者が増加流入，企業誘致などにも波及効果があったか伺う。
					(2) 中高連携の今後について	ア) 高校と教育委員会との連携をどう進めるか伺う。
						イ) 本市の「教育政策研究チーム」「みよし結芽人育成研修会」との連携について伺う。
				2 学校のあり方方針の小規模特認校について	(1) 通学区の自由化の現状と課題について	ア) 本市の現状と課題について伺う。
					(2) 小規模特認校設置に向けた課題等について	ア) 特認校を1校にする理由について伺う。
						イ) 特認校としての支援を今度どう進めていくのか伺う。
				3 総合教育会議・教育委員会会議でのあり方方針の議論について	(1) 総合教育会議と教育委員会が協議・調整を行うべき課題について	ア) 3月開催の総合会議で学校統廃合ほか1件を扱った理由について伺う。
					(2) 総合教育会議・教育委員会会議が，学校のあり方をめぐる取組で果たすべき役割について	ア) 「学校統廃合」が教育だけでなく，市・各地域にとっての重要課題としてとらえているのか見解を伺う。
						イ) 「学校統廃合」が地域へ及ぼす影響とその対応について伺う。

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年6月定例会】

豊かな心といきがい						
分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目
芸術・文化	－	－	－	－	－	－
スポーツ	④	三輝会	横光 春市	1 令和7年度施政方針について	(3) スポーツを通じた健康増進と生きがいづくりについて	ア) 市民の皆さんが、「それぞれのライフステージに応じて、スポーツを通じた健康増進や生きがいづくりに取り組む事ができる環境づくり」とは、今年度、どのような環境づくりをされるのか伺う。
						イ) スポーツの団体等に属さない市民の健康づくりやスポーツへ関心を深めるための取組はどのようにされているのか伺う。

いきいきとした地域						
分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目
定住・交流	④	三輝会	横光 春市	1 令和7年度施政方針について	J R新広島駅ビル内でスタートしたm i o b y D o T S（ミオバイドッツ）について	首都圏のビルの15階にあり、誰もが目的を持って赴く「渋谷キューズ」があり、一方、広島では、新広島駅ビル ミナモア3階にあり、誰でも立ち寄ることが出来る「D o T S」がある。「渋谷キューズ」と「D o T S」の活用の仕方が異なると思うが、執行部は、それぞれ、どのように考えているのか伺う。
						イ) 「D o T S」で開催された三次市W E E Kの期間中どのようなイベントになったのか、その内容と成果について伺う。
						ウ) 三次市民が「D o T S」を活用し、市民の活動範囲を、経済活動に生かせればと考えるが、その対応が出来るのか伺う。また、市民が活用するときに、使用料が必要なのか、無料で活用できるのか、併せて伺う。
						エ) 三次市として、三次市内の民間事業者の方にイベントを開いて頂くよう、「D o T S」の活用を呼びかけではどうか。また、本市としては、三次市内の就職案内、移住・定住の相談会を開催すればと考えるが、民間事業者の就職案内も出来るのか、併せて、執行部のお考えを伺う。
住民自治	②	真正会	鈴木深由希	1 三次市まち・ゆめ基本条例に沿ったまちづくりについて	(1) 市民の権利と責務について	ア) 第7条に市民はまちづくりに参加する権利を持つとある。国籍、年齢、性別、心身の状況、社会的または経済的環境の違いにより差別されることがなく、常に対等に参加する権利を有している。権利があるとしているが、市民の参画が希薄になってきていると様々な場面で耳にする。制定以降、条例の普及、啓発はどのように行われ、市民に浸透させてきているのか。
						イ) 条例の理念「市民のしあわせを目指すまちづくり」を市民が認識していない現実を重く受け止めなくてはならないと考える。平成30年1月10日3回目の三次市まち・ゆめ基本条例の検証に関する意見提言5項目の最後に「今後の検証においては、さまざまな角度から本条例の認知度や理解において把握し、可能な限り数値で示されたい。」とある。これ以降、どのように取り組んで、効果的な啓発が持続的に行われてきたのか。
						ウ) これまで、検証の市民アンケートは実施してきたのか。応募数、参考意見についてと、今回の市民アンケートの令和7年3月3日から現在までの応募状況の途中経過を伺う。
						エ) 令和3年8月26日の検証委員会の会議要旨によると職員にアンケートを実施している。実施内容、回答状況を伺う。
						オ) 「地域自治活動は公的サービスを担う重要な主体として活動状況を広く公開し、その活動が市民に理解される取組みが必要。」市と自治連との関係性を見直すところにきていないか。それぞれの役割と責務を根本から検証する必要があると考える。ご所見を伺う。
					(2) 市の役割と責務について	ア) 市長は、法律または法令により他の執行機関の権限とされている事務以外の全ての事務を管理・執行する広い権限を持っている。3回目の検証の意見提言項目4にまちづくりの推進役である市職員は、本条例の内容を深く認識し、まちづくりにあたられたいとあるが、この意見を受け止めて市長は市職員の育成に努められてきたか、市長が考える市職員とは所見を伺う。
						イ) 事業を進めていく上で市民との意思疎通がスムーズにいかないことが発生する。議員に相談がくるときは、市の方針が理解できない、説明が分りにくい時などである。市の責務として重要なことの一つに市民に不利益をもたらすことだけは決してあってはならないと考える。公共的な課題を解決するために、市民が市長に事実確認や、具体的方策を求められた際、市長はどのように受け止めてどう対応しているかを伺う。
					(3) まち・ゆめハンドブックとまち・ゆめM O O Kの活用について	ア) みよしの未来をつくるまち・ゆめハンドブック「三次市まち・ゆめ基本条例」の扱いについて市民への配布状況を伺う。
						イ) 「三次市まち・ゆめ基本条例」に掲げる「まちづくり」について、子どもたちに理解してもらおうと、マンガによって分りやすく紹介した「まち・ゆめM O O K」小学生編と中学生編がある。施行と同時に発行されている。このM O O Kはいつ配布されてどう児童生徒に活用しているか伺う。
						ウ) 3回目の検証作業で実施した中学生へのまちづくり作文募集の取組について伺う。作文応募に向けて「まち・ゆめ基本条例」について事前学習を行っているのか伺う。

住民自治	②	真正会	鈴木深由希	1 三次市まち・ゆめ基本条例に沿ったまちづくりについて	(3) まち・ゆめハンドブックとまち・ゆめM O O Kの活用について	エ) 初回は市広報で中学生のまちづくり作文優秀作品の紹介記事の見出しは「三次市まち・ゆめ基本条例検証委員会」の取組みと一緒に優秀作品3点が見開きページで紹介されている。2回目・3回目はまちづくり作文優秀作品と紹介されているが、「まち・ゆめ基本条例検証委員会」の提案による事業であることが全く表記されていないのは残念である。なぜ、まち・ゆめ基本条例への意識の向上に繋げる機会としなかったのか、所見を伺う。
	③	三輝会	月橋 寿文	3 各種補助金について	(2) 現状を見据えた任意団体への補助金のあり方について	ア) 市内には、個人で集まった任意団体が数多く存在し、国際交流、障がい者ボランティア、野外体験活動など、様々な活動を行っている。イベントやマルシェなども企画し、三次の元気づくりに貢献されているが、資金面で苦勞されているようである。自治連だけでなく任意団体も応援すべきと考えるが補助金の検討はされないか伺う。

みよし未来共創ビジョン（第3次三次市総合計画）体系別通告項目一覧 【令和7年6月定例会】

活力ある産業						
分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目
農林畜産	①	公明党	中原 秀樹	2 農業振興について	(1) 新規就農者への支援について	ア) 地域共創部において、地域おこし協力隊制度を活用した新規就農者に対しては、定期的に訪問や状況確認をされていると聞かすが、採用後に農政課に引き継がれる場合、どのように対応されているのか伺う。
						イ) 本市に縁故関係のない新規就農者の課題の一つとして繁忙期や病気等で急遽人手不足になることがある。本市では一日バイトアプリ（デイワーク）が進められているが、市民への周知があまり出来ていないのではないか。今後のパート雇用支援について市としての考えを伺う。
						ウ) 農水省は、2024年度の補正対策で「女性の就農環境改善・活躍推進事業」として、1件当たり300万円を上限として女性の働きやすい環境整備に助成をしている。本市としては女性の就農者に対しての支援はないが、今後の女性就農者の労働環境整備支援について考えを伺う。
					(2) 振興作物の追加について	ア) 令和8年度から令和12年度に向けて第3期三次市農業振興プランが策定される中で、これまで重点品目は3品目であったが県内の市場ニーズを把握して三次地域のブランド化をめざすパープルナスを重点品目に追加する考えはないか。また新規就農時に1反あたり100万円程度の初期費用が掛かるが、本市として交付金助成の考えについて伺う。
	④	三輝会	横光 春市	2 農業の今後について	(1) 現在の市場米価に対する市の考えについて	ア) 現在のテレビ等の報道や市場米価をどのように捉えているか伺う。
						イ) ここ数年の物価高騰を鑑み、米の生産者の販売価格、1袋30キロ当たりの適正価格はいくらと考えるか伺う。
					(2) 米の生産調整・減反政策の現状について	ア) 減反割り当て・生産調整の面積と実際の作付面積は令和6年度と令和7年度の状況、併せて、飼料米の作付面積の動向も伺う。
						イ) 現状をどのように捉え、今年度策定される第3期三次市農業振興プランに反映させ、農業の振興を図ろうとされるのか伺う。
	⑧	清友会	保実 治	1 農作業事故について	(3) 県市長会の意見書における提言に内容について	ア) 12月定例会での一般質問で、広島県の市長会において、米の価格に対する意見を提出していると答弁されているが、その意見書は、どのような内容で提出されているのか伺う。
					(1) 非常事態の農作業事故の現状とその対策について	ア) 農作業事故について、どのように認識されているのか。
						イ) 本市での事故の現状と対策について伺う。
						ウ) 農作業中の安全に対する市民の意識を高め、事故件数の減少につながる方策は考えているのか。
商工	③	三輝会	月橋 寿文	3 各種補助金について	(1) 時代に合った事業者への補助金のあり方について	ア) 三次広域商工会、三次商工会議所の若手経営者や経営者候補の意見を参考に、これからの時代にあった補助金を検討していくべきだと考える。IT導入や賃上げ促進を目的にした補助金を検討されていないか伺う。
観光	④	三輝会	横光 春市	1 令和7年度施政方針について	(4) 観光事業の推進について	ア) 私には、「みよしDMO」の活動が見えない。各種イベント等への係りや支所管内等・周辺部の観光振興にはどのように係りを持って活動されているのか伺う。

観光	④	三輝会 横光 春市	1 令和7年度施政方針について	(4) 観光事業の推進について	イ) 現在の「みよしDMO」の活動には課題があるとする。以前のように、活動できる観光協会を立ち上げ、支所管内には支部を設置し活動を活性化させればと考えるが、執行部の所見を伺う。
	⑦	清友会 宍戸 稔	2 地域の拠点施設の運営と市との関わりについて	(1) 第三セクターへの市の関わりについて	ア) 第三セクターとしての君田トエンティワンが解散になったことから市の関わりに改善、変化はあるのか。
					イ) 地域の拠点施設と普通財産としての取り扱いについて、合併前の地域の思いで立ち上げられた第三セクター君田トエンティワンの解散は本当にその役目を終えたとしての終焉でよかったのか。旧町村の行政目的で整備された施設を普通財産としてよかったのか。
				(2) 君田温泉施設の運営と市との関わりについて	ア) 1 民間会社の運営には市は関与しないのか、できないのか。施設改修の補助金は適正に運用されているのか。
			3 三次観光推進機構について	(1) DMO三次観光推進機構と市との関わりについて	ア) 各地域にあった観光協会を統合し、更には各種団体を交えた組織として立ち上げられたDMOの成果と課題等、これまでの取組状況について伺う。
					イ) DMOとしての役割について、市はどのような関わりを持ち、観光庁の評価はどうか伺う。

その他						
分類	発言順	会派名	氏名	大項目	中項目	小項目
その他	①	公明党	中原 秀樹	3 市役所本庁舎駐車場整備事業について	(1) 測量及び実施設計について	ア) 駐車場整備事業に限らず、コンサルから納品のあった実施設計を受けて工事発注するまでに、市の内部（土木課や都市建築課など）で、実施設計にミスや誤認がないかの協議をしておられるのか。納品を受けてから、工事の発注に至るまでにどのような検査をしておられるのか。発注までの経緯について伺いたい。
					(2) 工事施工における仕様書について	イ) 駐車場整備事業の件では、実施設計段階での現地確認において、工事の手順や進め方をどのように検討されたのか。また、仕様書上に明記されている材料承認については、内部協議の上で決められていると思うが、どのような手順で行われているのか伺いたい。
						ア) 家が近くにあり、大型重機が作業する工事であったと思うが、整備工事において事前調査（家屋調査）を事前に実施されたのか。一般的に、発注前に実施される調査なのか。それとも、工事を請け負った業者が協議のもとで施工されるものなのか伺う。
						イ) 駐車場のようなアスファルト舗装を施工する場合は、C B R試験を実施されて舗装構成などの基準値の設定や、土質が悪い場合の改良基準には土質試験が必要不可欠であると認識している。本市としては、どの段階でC B R試験を実施されたのか。また、試験を実施する判断基準について伺う。
						ウ) 仕様書中に「疑義が生じた場合は係員と協議し指示を受ける」と明記してあるが、市の指示の適否によっては、請負額に見合わず、受注業者の企業努力に帰結するケースもあるのではないか。市の担当係員には、専門的知見が要求されるところであるが、現場を担当される係員には専門的知見を有する方が携わっておられるのか伺う。
	⑥	清友会	重信 好範	3 投票区の再編ならびに投票率向上について	(1) 投票率の向上の取組について	ア) 全国的な投票率の低下をどう分析しているのか伺う。
					(2) 投票区の再編成の課題等について	イ) 7月に予定されている参議院議員通常選挙や秋に予定されている県知事選挙にむけて過去の反省をふまえ投票率の向上になりえる取組を伺う。
						ア) 再編は市民の理解が得られるのか、又、該当地域への市民の説明状況を伺う。
					(3) 期日前投票所の増設に向けての取組状況について	イ) 再編は投票率の向上につながるのか伺う。
						ア) 市立三次中央病院にも増設する（案）が出ているが具体的に進んでいるのか伺う。
						イ) 市立三次中央病院側として期日前投票所の設置（案）について課題はないのか伺う。
					(4) 巡回式期日前投票所の設置の検討状況について	ア) 市立三次中央病院の設置に向けての準備状況を伺う。
						イ) 3つの高校への同時設置が難しいのであれば、まず1校から実施する考えはないか伺う。
	⑩	明日への風	藤岡 一弘	3 公共施設等の適正な管理運営について	(1) 三次市公共施設等総合管理計画・個別施設計画への進捗状況等について	ア) 第4次三次市行財政改革推進計画（令和元年10月策定）及び三次市公共施設等総合管理計画（改訂）で定めた数値目標は、平成28年～令和7年度の期間で平成28年3月現在の公共施設数783施設の「3分の1」の削減である。目標に対する計画最終年度を迎え、進捗状況を問う。
						イ) 個別施設計画の計画期間が令和7年度までであることを踏まえ、これまで計画の進捗状況を参考に今後の計画をどう策定していくのか問う。
						ウ) 集会所などは地域避難場所に指定されている場所もある。今後公共施設削減に向けて解体や譲渡を促進した場合、地域の拠点の喪失だけでなく、安全対策にも影響があると考ええる。公共施設削減の計画について、慎重な策定を求めるが見解を問う。